



TITLE:

社会構造分野(Ⅱ 研究所の概要)

AUTHOR(S):

加納, 隆至; 大澤, 秀行; 鈴木, 晃

CITATION:

加納, 隆至 ...[et al]. 社会構造分野(Ⅱ 研究所の概要). 霊長類研究所年報
1996, 26: 30-32

ISSUE DATE:

1996-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164862>

RIGHT:

社会構造分野

大澤秀行

加納隆至・大澤秀行・鈴木 晃

研究概要

A) 中央アフリカザイール森林における野生ボノボの社会及び行動の研究

加納隆至・橋本千絵¹⁾・田代靖子¹⁾

ザイール共和国ジョル地区ルオ学術保護区ワンバ森林においてボノボ(ピグミーチンパンジー)の組織的研究は、1991年9月から中断していたが、1996年2月から再開した。

B) 東アフリカタンザニアにおける野生チンパンジーの研究

(1) マラガラシ川北岸における野生チンパンジーの研究

加納隆至・小川秀司²⁾

タンガニカ湖西岸に注ぐ最大のマラガラシ川北岸に、リランシンバ丘陵を中心として、チンパンジーの小さな孤立分布域の存在が1994年度の調査で明らかにされている。今年度の調査では、分布範囲と密度の推定、および、生息地内外の植生の調査をおこなった。

(2) ウガラ丘陵地域の乾燥生息地におけるチンパンジーの生態

小川秀司²⁾

野生チンパンジー分布域の東限であり、最も乾燥した地帯のひとつであるウガラ丘陵地域において、同地域の植生およびチンパンジーのネストの分布調査、食痕および糞分析を行い、彼らの生息地利用に関する研究をおこなった。

C) 性淘汰、社会構造に対する要因としての霊長類のメスの繁殖戦略

大澤秀行・光永房子⁴⁾・柳原芳美³⁾

霊長類における性淘汰、および社会構造に影響をおよぼすメスの性行動を研究している。これまで放飼群やグループケージ飼育ニホンザルについてその行動を調べてきた。メスの生殖生理学的解析も重要であるため、生理学者の協力も得て研究を行っている。

D) 中央アフリカ乾燥サバンナおよび多雨林における霊長類の社会生態学的野外研究

カメルーン北部のカラマルエ国立公園におけるパタズガルとミドリザルの野外研究を1984年より継続している。今年度は現地調査は行わず、繁殖期に生じる社会変動と繁殖行動の関係についてこれまでの資料を分析している。熱帯林の調査は、今年度カメルーン南東部の新保護区ロベケ保護区、およびガボンのロベ自然保護区、プチロアンゴ自然保護区について、類人猿の亜種分布調査を含む霊長類の生息調査をおこなった。

E) タイ国南部の霊長類とその森林環境の保護に関する基礎研究

大澤秀行

1995年8-9月、翌年2月にタイのケン・クラチャン国立公園、カオ・ヤイ国立公園において、ダスキールトン、ブタオザルの生息調査、採食行動調査をおこなった。

F) インドネシア、クタイ国立公園のオランウータンの野生における社会、生態学的研究

鈴木 晃

1983年から続けている野生オランウータンの生態学的研究を続行している。

(1) 個体職別の下に約50平方キロメートルの観察地に過去13年間に約50頭余りのオランウータンの個体を観察してきた。

(2) 性発情周期、出産仔数等の情報が充実してきた。

(3) 石炭開発の中で石炭会社との間で、保護に関する打ち合わせが進行している。本研究は、本研究所とインドネシア、パジャジャラン大学との間で大学間協力研究として進行されてきているものである。

G) マカク類の比較社会学的・生態学的研究

加納隆至・大澤秀行・小川秀司²⁾・

田中 香¹⁾・田代靖子¹⁾・新宅広二⁵⁾

マカク類の生態・社会進化を明らかにするため野外研究を行っている。今年度はニホンザルについて、金華山(採食生態)、高崎山(個体群動態)、

1) 大学院生、2) COE研究員、3) 技能補佐員、4) 科研費研究協力者、5) 研究生

嵐山(老齢メスの社会性)において調査を行い、チベットモンキーについては、行動分析のまとめをおこなった。

H) その他の哺乳類の社会行動研究

加納隆至・大澤秀行・小林 隆¹⁾・柳原芳美²⁾
半野生馬(宮崎県都井岬)、アライグマ(犬山市栗栖)について社会行動の調査を行い、霊長類とは異なるタイプの社会についても動物社会学的研究を行っている。

論文

—英文—

- 1) Asato, R., Takeda, J., Sato, H., Idani, G., & Kano, T., (1995) Vitamin C content of representative plant food used by horticulturalists in the Zaire basin and its evaluation. *Humans and Nature*, No.5: 13-24.
- 2) Hashimoto, C. (1995) Population census of the chimpanzees in the Kalinzu Forest, Uganda: comparison between methods with nest counts. *Primates*, 36: 477-488.
- 3) Kano, T. & Asato, R. (1994) Hunting pressure on chimpanzees and gorillas in the Motaba river area, northeastern Congo. *Kyoto University African Study Monographs*, 14(3): 1-20.
- 4) Ogawa, H. (1995) Bridging behavior and other affiliative interactions among male Tibetan macaques (*Macaca thibetana*). *Int. J. Primatol.*, 16: 707-729.
- 5) Ogawa, H. (1995) Triadic male-female-infant relationships and bridging behaviour among Tibetan macaques (*Macaca thibetana*). *Folia Primatol.*, 64: 153-157.
- 6) Ohsawa, H., & Sugiyama, Y. (1996) Population Dynamics of Japanese Monkeys at Takasakyama: Trends in 1985-1992. In T. Shotake & K. Wada (Eds.), *Variations in the Asian Macaques*, pp.163-179. Tokyo: Tokai University Press.

総説

—和文—

- 1) 鈴木晃 (1995) 忘れられた類人猿(上)「森の人」の生態を追う、やはり社会構造があった。

科学朝日4月号: 10-11、41-44.

- 2) 鈴木晃 (1995) 忘れられた類人猿(中)「分業体制」の起源. 科学朝日5月号: 41-44.
- 3) 鈴木晃 (1995) 忘れられた類人猿(下) 見えない「明日」. 科学朝日6月号: 41-44.

報告・その他

—英文—

- 1) Ogawa, H. (1995) Feeding and sleeping parties of Tschego Chimpanzees (*Pan t. troglodytes*) in the Nouabale-Ndoki National park. *Rapport Annuel 1994-1995 pour Recherches Scientifiques Cooperatives par Equipes Japonaises et Congolaises*, pp.54-58.

—和文—

- 1) 大澤秀行 (1995) カメルーンで発見された奇妙なチンパンジー: 幻のクーロカンバチンパンジーの可能性は果たしてあるのか. 遺伝, 49(12): 6-7.

学会発表等

—和文—

- 1) 橋本千絵・竹中修 (1995) DNA分析による野生ボノボの血縁関係の判定. 第11回日本霊長類学会 (1995年6月、犬山). 霊長類研究, 11(3): 283.
- 2) 小林隆 (1995) ウマの婚外交尾. 第17回日本生態学会中部地区会 (1995年10月、犬山).
- 3) 光永総子・熊崎清則・阿部政光・釜中慶朗・前田典彦・松林清明 (1995) 出産記録によるニホンザルとアカゲザルの繁殖現象の比較. 第11回日本霊長類学会 (1995年6月、犬山). 霊長類研究, 11(3): 319.
- 4) 小川秀司 (1995) ニホンザル嵐山F群における養子取りによる双子と母親の社会交渉. 第14回日本動物行動学会 (1995年12月、三田). 発表要旨集, p.17.
- 5) 大澤秀行 (1995) バタスモンキーの社会動態—群オスの交代. 第32回日本アフリカ学会学術大会(1995年5月、半田) 発表要旨集, p.46.
- 6) 高橋弘之・田中香 (1995) 金華山のニホンザル野生群における分派行動 II -メンバーシップ-. 第14回日本動物行動学会 (1995年12月、三田). 発表要旨集, p.19.

- 7) 田代靖子 (1995) 老齡メスニホンザルの社会関係. 第14回日本動物行動学会 (1995年12月、三田). 発表要旨集, p.18.
- 8) 柳原芳美・松林清明・松沢哲郎 (1995) ニホンザルにおける飼育環境のエンリッチメント: 指迷路餌箱での採食の加齢変化. 第11回日本霊長類学会 (1995年6月、犬山). 霊長類研究, 11(3): 333.
- 9) 柳原芳美・大沢秀行 (1995) 愛知県犬山市におけるアライグマ若オス2頭の行動パターン同調について. 日本哺乳類学会1995年度大会 (1995年9月、京都). 哺乳類科学, 35: 82.
- 10) 柳原芳美 (1995) アライグマの餌場における行動. 第14回日本動物行動学会 (1995年12月、三田). 発表要旨集, p.42.
- 11) 柳原芳美 (1996) 繁殖にともなうアライグマの行動域の季節変化. 日本生態学会第43回大会 (1996年3月、八王子、東京). 講演要旨集, p.125.

行動神経研究部門

思考言語分野

松沢哲郎・藤田和生・友永雅己

研究概要

A) チンパンジーの認知・言語機能の比較認知的科学研究

松沢哲郎・友永雅己・金沢 創¹⁾・佐藤 明¹⁾

チンパンジーとヒトを対象に、認知・言語機能の比較研究を継続しておこなった。色や数の認識、図形パターンや表情の認知、一体性の知覚、反応のまとまり、刺激等価性、認知的負荷の異なる課題間の選択などのトピックスについて、実験的な分析をおこなった。この研究テーマの一部は、大芝宣昭 (大阪大学院生) と鈴木修司 (北海道大学院生) の2人の共同利用研究員との共同研究である。

B) 野生チンパンジーの道具使用と文化的変異

松沢哲郎

西アフリカのボソウのチンパンジーの行動と生態を、夏と冬の時期に現地調査した。新しい道具使用のレポートリーを発見し、道具使用の発達と文化的伝播について野外実験をおこなった。そ

の一部は、山越言 (大学院生)、中村徳子 (関西学院大学大学院生)、タチアナ・ハムル (エディンバラ大学学生) との共同研究である。

C) チンパンジーのトークン使用

松沢哲郎・水谷俊明¹⁾・鈴木修司²⁾

チンパンジー10個体を対象に、トークン (代理貨幣) を使用する行動を実験的に分析した。トークンを投入する場所の弁別や、トークンのもつ交換可能な価値を識別する行動を実験的に分析した。

D) 飼育霊長類の環境エンリッチメント

松沢哲郎・熊崎清則³⁾・前田典彦³⁾・竹元博幸¹⁾

飼育霊長類の環境エンリッチメントプログラムの一貫として、チンパンジーの居住する3つの屋外運動場に植樹した。そのうち主たる運動場に植えた28種140本の植栽樹に対するチンパンジーの採食行動を記録し、採食の選択性が生じる原因を検討した。

E) 霊長類の錯視知覚に関する比較心理学的研究

藤田和生

アカゲザルとチンパンジーを対象に、ボンゾ錯視の知覚の分析をおこない、ヒトと比較した。奥行き感を持つ背景の効果と、刺激全体の向きの効果を調べた。

F) ニホンザルの3次元形状知覚に関する比較認知的科学的分析

藤田和生・金沢 創¹⁾

異テクスチャ領域検出課題を用いて、陰影による形状知覚を分析した。陰影の方向による検出の容易さの違いをヒトと比較した。

G) スラウエシマカクの種の認知

藤田和生・渡邊邦夫⁴⁾

インドネシア・スラウエシ島南部において、2種のスラウエシマカクを対象に、近縁の種の写真に対する視覚的な好みを調べた。

1) 大学院生、2) 共同利用研究員、3) サル類保健飼育管理施設技官、4) ニホンザル野外観察施設 5) 学振特別研究員